

WHO における ICD-10 の改正について

○WHOは、現在、医学の進歩等に対応するため、ICD-10の改正（アップデート）、すなわち、ICD-10のまま改善（大改正、小改正）を加え、バージョンを更新することとしている。

○改正の原則と改正手続き

「基本分類表 (tabular list)」の改正は3年ごとの「大改正 (Major change)」と毎年行われる「小改正 (Minor change)」に分けられており、基本分類表に影響を与えない「索引」については、毎年改正される。

大改正については、毎年10月のWHO-FIC協力センター長会議においてWHOが受理したICD-10の改正項目のうち大改正に該当する更新事項が、翌年のWHOのwebsiteに公表され、「大改正 (Major change)」と明示されて指定された大改正の年の1月から施行される。

小改正については、毎年10月のWHO-FIC協力センター長会議においてWHOが受理したICD-10の改正項目のうち小改正に該当する更新事項が、翌年WHOのwebsiteに公表され、その年の翌年1月から施行される。

[参考] 大改正と小改正の区分

大改正 (Major change)

- ・ 新たなコードの追加
- ・ コードの削除
- ・ コードの移動
- ・ あるコードについて、3桁分類項目のカテゴリーの変化を伴う索引の改正
- ・ 罹患率もしくは死亡率に関するデータ収集の精度に影響を与えるルールもしくはガイドラインの改正
- ・ 新たな用語の索引への導入

小改正 (Minor change)

- ・ あるコードについて、同一の3桁分類項目のカテゴリー内における索引

の修正もしくは明確化

- ・内容例示表もしくは索引の強化（例：包含、除外項目の追加、及び二重分類の追加など）
- ・あるコードについて、概念の変化ではなく表現の強化
- ・罹患率あるいは死亡率に関するデータ収集の精度に影響を与えないルールあるいはガイドラインの改正
- ・誤植の修正

○バージョンの管理

ICD-10 は、施行年がわかるようにすべてに施行年を明示する。

例えば、1999 年に施行された（実行に移された）ICD-10 は「ICD-10(1999)」と標記される。

日本は現在 ICD-10(1990)を使用している。

センター長会議 開催年	小改正／大改正	WHO website に よる公表	公式な施行日	ICD-10 version
1997	小改正	1998.1	1999.1	ICD-10 (1999)
	大改正	1998.1	2000.1	ICD-10 (2000)
1998	大改正*	1999.1	2000.1	ICD-10 (2000)
1999	小改正	2000.1	2001.1	ICD-10 (2001)
	大改正	2000.1	2003.1	ICD-10 (2003)
2000	小改正	2001.1	2002.1	ICD-10 (2002)
	大改正	2001.1	2003.1	ICD-10 (2003)
2001	大改正*	2002.1	2003.1	ICD-10(2003)
2002	小改正	2003.1	2004.1	ICD-10 (2004)
	大改正	2003.1	2006.1	ICD-10 (2006)
2003	小改正	2004.1	2005.1	ICD-10 (2005)
	大改正	2004.1	2006.1	ICD-10 (2006)
2004	大改正*	2005.1	2006.1	ICD-10 (2006)
2005	小改正	2006.1	2007.1	ICD-10 (2007)
	大改正	2006.1	2009.1	ICD-10 (2009)
2006	小改正	2007.1	2008.1	ICD-10 (2008)
	大改正	2007.1	2009.1	ICD-10 (2009)
2007	大改正*	2008.1	2009.1	ICD-10 (2009)

*大改正の年は、小改正を含む。

(WHO のホームページ http://www2.fhs.usyd.edu.au/ncch//WHO%20URC/who_urc.html より)